

## 九州大学GCOE「新炭素資源学」 第二回生活環境系国際シンポジウム 建築環境と健康維持・増進

九州大学総合理工学研究院 伊藤 一秀

- 【講演】加藤 信介(東京大学 生産技術研究所 教授) "建物内の感染症とバイオテロ対策"  
 大中 忠勝(福岡女子大学 人間環境学部 教授) "安全で快適な浴室空間の構築について"  
 田辺 新一(早稲田大学 理工学術院 教授) "健康で快適なこれからのすまい"  
 白石 靖幸(北九州市立大学 国際環境工学研究科 准教授) "健康とコミュニティの関わりを探る"

世界保健機関WHOによる健康の定義は「完全な肉体的、精神的および社会福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない」とされています。我々の生活環境における衛生レベルは近年になり格段に向上したと言えますが、シックハウス、ダンプハウスやハウスアレルギーをはじめ健康影響の懸念される問題は多く残っています。またこれらの問題を解決に導くと共に、同時に建築や地域環境の福利・厚生(Well-Being)を増進させる研究開発の推進が強く望まれています。特に、国土交通省住宅局では、健康維持増進を実現する住宅環境に関する研究を行うため、2007年度より「健康維持増進住宅研究委員会」を発足させ、精力的に研究を

推進しています。2009年12月4日に開催された本シンポジウムは、生活環境の中で特に建築環境に着目し、環境と健康に関する研究開発の最新成果を紹介し、産官学の積極的な交流を図ることを目的として企画したものです。シンポジウムでは、建物内でのテロ対策から生活事故の話題から、健康で快適な都市・すまいに関する最新研究事例が紹介され、特に会場の実務経験者の方々と交えて様々なディスカッションが行われました。九州大学、福岡女子大学の関係者の他、建築関連企業の方々を含めて77名の参加があり、大変盛況のうちに終了しました。



件(内G-COE学生発表19件)に及ぶ査読付論文提出および研究発表が行われ、地球科学技術に関する諸問題に関して活発な討議が行なわれました。とりわけ本シンポジウムでは、グローバルな視点に基づいて地球科学技術分野における重要課題に取り組む研究者によるプレナリーレクチャー(Ronny BERNDTSSON博

士(Lund University)、澤田賢治博士(JOGMEC))や九州大学G-COE「新炭素資源学」についての特別セッション等を実施し、若手研究者の研究意欲を啓蒙するとともに、若手研究者の査読付論文発表に対して優秀論文賞を14名(内G-COE学生発表3名、受賞者リスト参照)に授与するなど、若手研究者に国際

な活躍の場を提供しました。G-COEの特別セッションでは、藤田敏之博士(九州大学経済学研究院)、Prihadi SUMINTA-DIREJA博士(Institute Technology of Bandung, INDONESIA)、Gusti Z. ANSHARI博士(Tanjungpura University, INDONESIA)による講演が行われ、活発な質疑応答がなされました。



藤田敏之博士(九州大学経済学研究院)による講演:  
International Cooperation for Mitigating Climate Change



Prihadi SUMINTADIREJA 博士(Institute Technology of Bandung (ITB), INDONESIA)による講演:  
Geothermal Energy Development in Indonesia



Gusti Z. ANSHARI博士(Tanjungpura University, INDONESIA)による講演:  
Peats from West Kalimantan Province, Indonesia: The Distribution, Formation, Disturbances, Utilization and Conservation

## 2009 Sino-Australian Symposium on Advanced Coal and Biomass Utilization Technologies

九州大学先導物質化学研究所 林 潤一郎

【口頭発表】全72件

- 林 潤一郎(九州大学 先導物質化学研究所 教授)  
 "Catalytic and non-catalytic mechanisms in steam gasification of char from the pyrolysis of biomass"  
 "In-situ reforming of tar from the rapid pyrolysis of a brown coal over char"  
 則永 行庸(九州大学 先導物質化学研究所 准教授)  
 "Numerical simulation of partial oxidation of hot coke oven gas with a detailed chemical kinetic model"  
 Chun-Zhu Li (カーティン工科大学 教授)  
 "Importance of volatile-char interactions during pyrolysis and gasification"  
 "High-Speed Camera Observation of Coal Combustion in Air and O<sub>2</sub>/CO<sub>2</sub> mixtures and Measurement of Burning Coal Particle Velocity"  
 Hongwei Wu(カーティン工科大学 教授)  
 "Effect of alkali and alkaline earth metallic species on biochar reactivity and syngas compositions during steam gasification"

【開催日・場所】2009年12月9日～11日・イーストレイクホテル(武漢・中国)

## (1) 目的

石炭およびバイオマスの転換・利用に関する先端研究と技術開発の成果発表と討論を通じて、国際的研究者が知識を共有する。

## (2) 共催機関・団体

Curtin University of Technology(オーストラリア)、華中科技大学(中国)、Department of Innovation, Industry, Science and Research of Australia(オーストラリア)、National Natural Science Foundation of China(中国)、九州大学グローバルCOEプログラム:新炭素資源学

## (3) 参加者数・所属機関所在国

120名・オーストラリア,中国,日本,アメリカ,カナダ

## (4) 概要

招待講演を含め、石炭およびバイオマスの転換利用に関する72件の研究成果報告がなされました。いずれの資源についても、ガス化や熱分解・炭化、燃焼に加えて、燃焼・ガス化灰の高温挙動、革新的な低温変換・前処理(水系溶剤中の低温解重合、迅速高効率乾燥、低温熱分解によ

## Cooperative International Network for Earth Science and Technology (CINEST) 「地球科学技術に関する国際シンポジウム2009」

九州大学工学研究院 佐々木 久郎

- 【特別講演】Ronny Berndtsson(スウェーデン Lund大学 教授) "Dynamic Links between Climate and Environmental Change"  
 澤田 賢治(Virtual金属資源情報センター、九州大学・東京大学 客員教授)  
 "A Comparative Analysis of the Chinese and Japanese Copper Industries"  
 【招待講演】藤田 敏之(九州大学大学院 経済学研究 准教授) "International Cooperation for Mitigating Climate Change"  
 Prihadi Sumintadireja(インドネシア バンドン工科大学 教授) "Geothermal Energy Development in Indonesia"  
 Gusti Z. Anshari(インドネシア Tanjungpura大学 教授)  
 "Peats from West Kalimantan Province, Indonesia: The Distribution, Formation, Disturbances, Utilization and Conservation"

【口頭発表】全79件

【ポスター発表】全34件

【開催日・場所】2009年12月8日～9日・西新パレスホール

地球科学技術に関する国際的な連携を深めるための学術研究交流の場として、同分野に関連する国内外の12の大学および研究機関によって設立された「地

球科学技術に関する国際連携ネットワーク(Cooperative International-Network for Earth Science and Technology, CINEST)(Chairmanは松井紀久男

教授(九州大学))が主催となって「International Symposium on Earth Science and Technology 2009」を開催しました。同国際シンポジウムでは113